

2023年度3Q実績

2024年2月1日



決算ハイライト

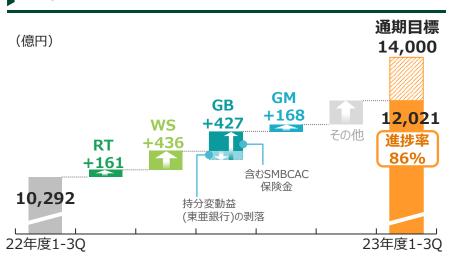
- ◆ 連結業務純益・親会社株主純利益ともに進捗率86%と高進捗
- ◆ 中期経営計画の着実な推進により、各事業部門は総じて好調連結業務純益はすべての事業部門で増益

(⇒ P16-17)

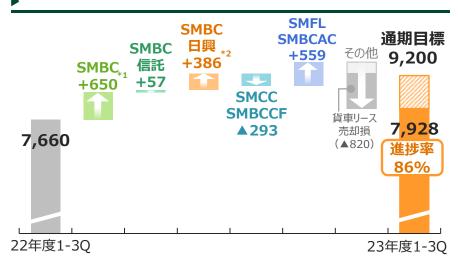
◆ リテール子会社の親会社株主純利益は与信コスト増で減益ながら、 抑制施策が奏功し3Q単体の発生は減少

 \Rightarrow P19-20

連結業務純益の増減内訳



親会社株主純利益の増減内訳



^{*1} SMBC・海外銀行現法の合算、22年度計上の一過性の大口子会社配当剥落(▲420、連結消去)を除いた内部管理ベース *2 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース

損益の概要

			23年度	前年	23年度
		(億円)	1-3Q	同期比	目標
1	連結粗利益		27,263	+3,489	
2	営業経費		▲ 16,310	▲2,033	
2	(経費率)		59.8%	△0.3%	
3	持分法投資損益	進抄	季 1,068	+274	
4	連結業務純益	86	% 12,021	+1,729	14,000
5	与信関係費用		▲ 1,347	▲236	▲ 2,300
6	株式等損益		1,446	+63	
7	その他		▲ 153	+83	
8	経常利益		11,967	+1,641	13,200
9	特別損益		▲ 1,121	▲ 1,097	
10	税コスト		▲ 2,881	▲316	
11	親会社株主純利益	86	7,928	+268	9,200
12	東証基準ROE		8.0%	▲0.3%	
13	株主資本ROE		10.1%	+0.1%	

● 連結粗利益 (為替影響:+720)

SMBC日興の回復や決済ビジネスの好調、 国内外の貸金収益増等により各事業部門が堅調に推移

■ 営業経費 (為替影響: ▲360)

インフレ影響(▲400)による経費増や 決済ビジネス好調等に伴う売上連動費増(▲260)により増加

₱ 持分法投資損益 (為替影響:+20)

前年度計上した東亜銀行にかかる 持分変動益の剥落(▲200)を、ロシア関連の保険金受領を 含むSMBCACの増益(+550)等でカバー

● 与信関係費用

国内のリテール子会社を中心に増加 (▲270) しているものの、 抑制施策が奏功し、3Q単体の与信関係費用は減少

● 株式等損益

海外上場出資先の減損(▲320)があった一方、 政策保有株式売却益(1,620、YoY+540)は増加

● 特別損益

米国貨車リース事業の売却損(▲1,070)を計上

(参考) 主要グループ会社の業績

SMBC

	(億円)	23年度 1-3Q	前年 同期比	23年度 目標	
1	業務粗利益	13,457	+579 °		
2	うち資金利益	8,176	▲ 537		
3	うち投資信託解約損益	60	▲258	大口の子	
4	国内	4,309	▲ 424	配当の录(▲420)	
5	海外	3,867	▲ 113	⇒連結消	当去
6	うち役務取引等利益	3,699	+335		
7	国内	1,643	+178		
8	海外	2,056	+157		
9	うち特定取引利益 +その他業務利益	1,561	+777		
10	うち国債等債券損益	212	+991		
11	経費	▲ 7,242	▲ 707		
12	業務純益	6,216	▲129	7,650	
13	与信関係費用	▲19	△524	▲850	
14	株式等損益	1,385	+105		
15	その他臨時損益	93	▲105		
16	当期純利益	5,549	▲88	6,400	

*1 前年同期比は再編影響を遡及反映

■ SMBC以外の主要グループ会社

			(左:23年度1-3Q実績、右:前年同期比)			
(億円)	SMCC*1		SMBC	日興 *2	SMB	CCF^{*1}
業務粗利益	4,058	+410	3,341	+670	1,868	+116
経費	▲3,303	▲396	▲ 2,900	▲264	▲ 775	▲ 43
業務純益	769	+25	441	+405	939	▲10
当期純利益	276	▲ 54	332	+386	249	▲239

(持分法適用)

	SMBC	信託	三井住	友DS ₅₀	% SMFL	.*3 50%
業務粗利益	524	+116	304	+33	2,166	+254
経費	▲303	▲ 30	▲247	▲18	▲917	▲ 63
業務純益	221	+87	57	+15	1,311	+177
当期純利益	169	+57	38	+13	1,199	+587

^{*2} SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース

^{*3} 内部管理ベース

(参考)主な大口特殊要因

航空機リースでの保険金受領

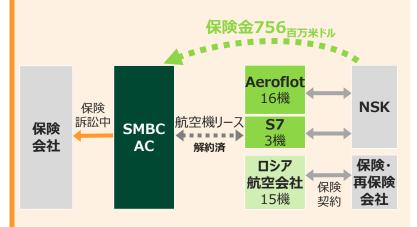
ロシア留置機体34機 簿価16億ドル(減損前)

23/9までの減損影響合計 ボトムライン ▲810億円*1

23/3Q: Aeroflot向け16機に加え、S7向け3機を対象に ロシアの保険会社から保険金受領

財務影響

ボトムライン +317百万米ドル*2



● 追加減損時の最大影響:ボトムライン▲70百万米ドル

米国・貨車リース事業の売却

2013: 貨車リース事業参入

• Flagship Rail Servicesを買収、 SMBC Rail Services (SMBCRS) に社名変更

2017: American Railcar Leasing買収

● 事業規模の拡大および より採算性の高い車種の獲得を企図

米国有数の貨車リース事業者に成長

事業環境の変化や業界再編を背景に減損リスクも 効率的な業務運営・競争力の維持が課題に

貨車規制強化

マージン低下

23/12: ITEC売却

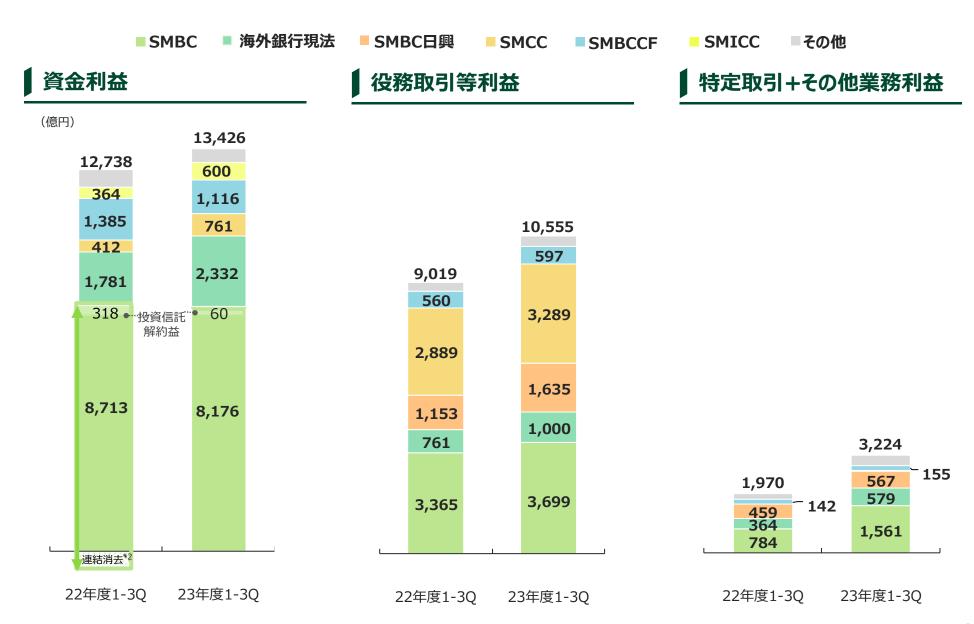
成長事業領域への経営資源再配分により、 事業ポートフォリオの資本効率改善を目指す

財務影響

(CET1比率影響)

RWA	$ riangle$ 2,900 $_{ar{ exttt{a}}ar{ exttt{b}}ar{ exttt{k}}ar{ exttt{b}}$	+4bp
ボトムライン	▲580 _{百万米ドル} *3	▲ 7bp

^{*1} 保証金ネット後 *2 簿価残高の減損額ネット後、30は450億円で計上(円貨換算額は24/3末為替で確定)

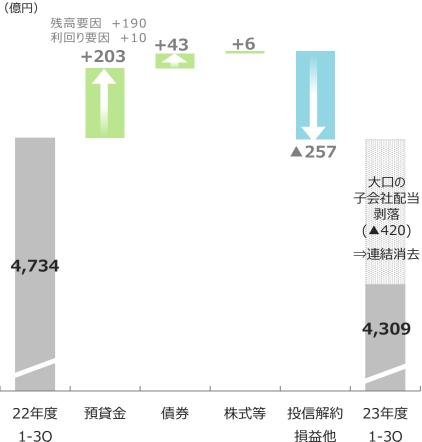


(参考) 資金利益の増減要因 (BC単体)

国内

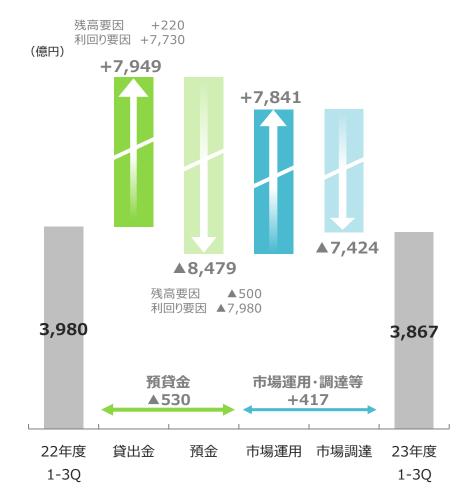
● 投信解約益の減少があるも、 預貸金収益は残高・利回りの両面から増加

*前年度に計上した大口の子会社配当の剥落は連結上影響なし

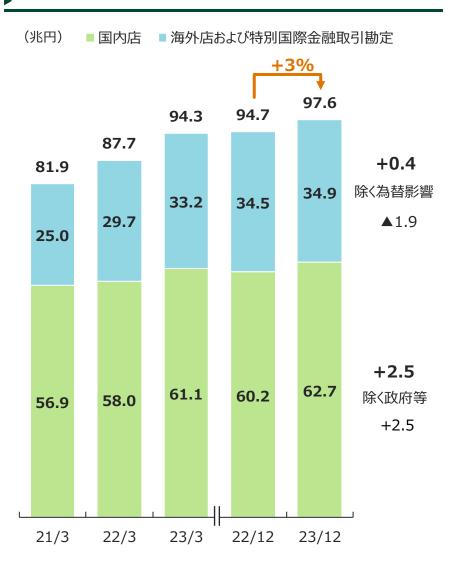


■海外

● 23年3月の金融不安を踏まえて流動性確保に注力 金利上昇も相まって預金調達コストが増加



貸出金残高



国内預貸金利回差

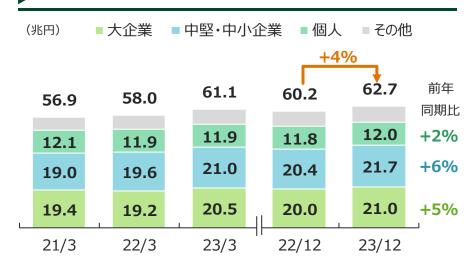
(%)	23年度 1-3Q	前年 同期比	1Q	2Q	3Q
貸出金利回	0.83	+0.00	0.82	0.83	0.85
預金等利回	0.00	▲0.00	0.00	0.00	0.00
預貸金利回差	0.83	+0.00	0.82	0.83	0.85
(参考)政府等向	け貸出金控	除後			
貸出金利回	0.85	+0.00	0.84	0.84	0.86
預貸金利回差	0.85	+0.00	0.84	0.84	0.86

期中平均貸出金残高・スプレッド*2

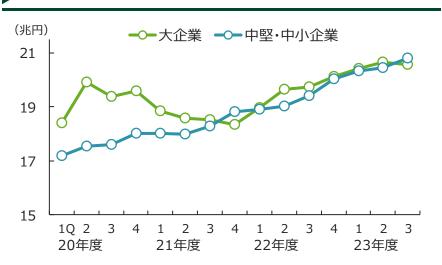
	平均残高(兆円)		スプレット	% (%)
	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*4}	23年度 1-3Q	前年 同期比
国内貸出	59.6	+2.5	0.72	+0.00
除く政府等・SMFG向け	57.1	+2.5	0.74	▲0.00
うち大企業	20.6	+1.1	0.56	+0.02
うち中堅・中小企業	21.1	+1.2	0.64	+0.02
 うち個人	11.9	+0.1	1.37	▲0.03
GB運用資産(億ドル)*3	3,457	▲254	1.20	+0.04

国内預貸金*1

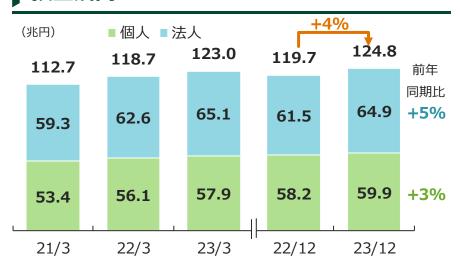
貸出金残高*2



法人向け平均貸出金残高^{*2,3}



預金残高



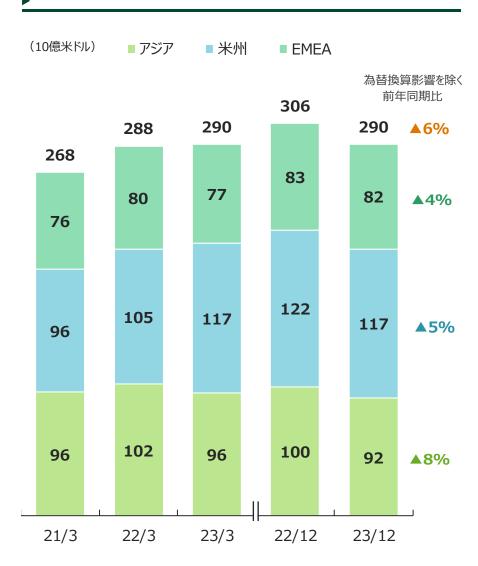
法人向け貸出金スプレッド*2,4



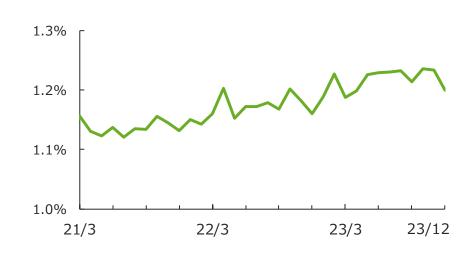
^{*1} BC単体 *2 内部管理ベース *3 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く *4 ストックベース、政府向け等を除く

海外預貸金*1

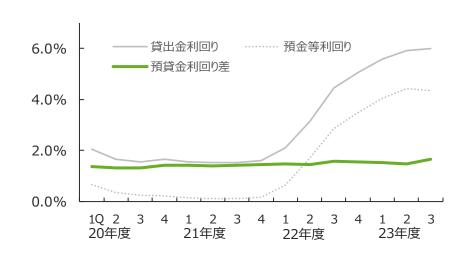
貸出金残高



貸出金スプレッド*2



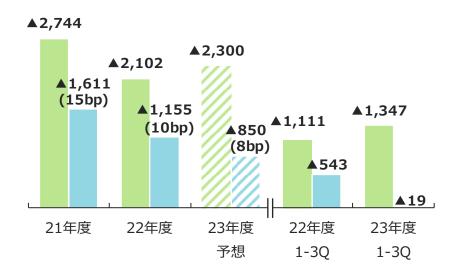
預貸金利回り差



アセットクオリティ

与信関係費用





連単差の主な内訳(概数)

(億円)	23年度1-3Q	前年同期比
SMBCCF	▲ 540	▲ 120 *2
SMCC	▲ 380	▲ 150 *2
海外銀行現法	▲ 230	180
SMICC	▲ 170	110
為替差損益にかかる調整	-	▲ 100 *3

不良債権比率*1·残高



総子信木秀			(兆円)
連結	107	116	122
BC単体	104	113	116

その他要注意労	こ(除く要管理	債権)	
BC単体	1.9	1.8	1.7

^{*1} 不良債権比率=銀行法及び再生法に基づく債権残高(除く正常債権)/総与信

Copyright © 2024 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

有価証券1

その他有価証券の内訳(連結)

	残高		評価	損益
(億円)	23/12末	23/3末比	23/12末	23/3末比
満期保有目的	2,269	+613	▲ 6	▲ 2
その他有価証券	356,392	+31,742	26,112	+6,960
国内株式	36,571	+3,117	23,239	+3,792
国内債券	122,090	▲ 9,685	▲898	▲256
うち国債	88,796	▲ 6,967	▲ 506	▲142
その他	197,732	+38,311	3,770 [*]	+3,424
うち 外債	160,057	+29,242	↑ △ 6,567	+406

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

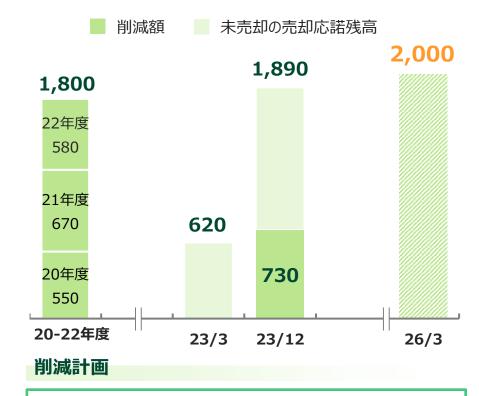


*1 外国債券との差額は外国株式等

*2 23/12末:31.1%、分子には有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

政策保有株式

売却応諾を順調に獲得 削減額は、年間目標を3Qで達成



- 23-25年度(3ヵ年)で△2,000億円削減
- 次期中計期間中(26-28年度)に連結純資産に対する時価割合20%未満の目処をつける*2

有価証券②

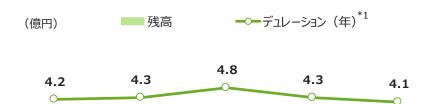
円債(BC単体)

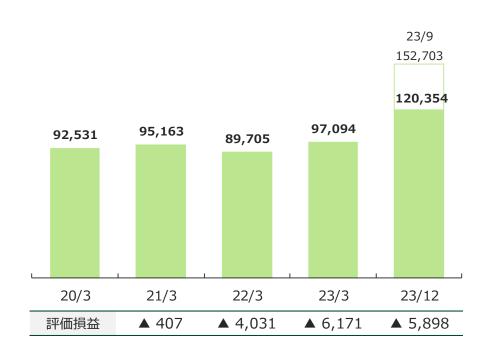






外債(BC単体)





バランスシート

連結B/S

() 内は23/3末比

95.3兆円 (+9.5兆円)

純資産

13.9兆円 (+1.1兆円)

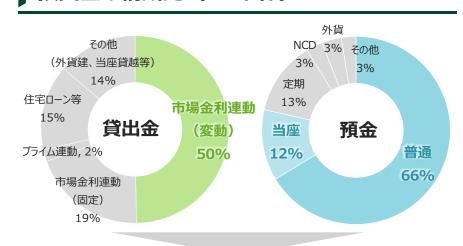
預金 貸出金 103.2兆円 (+4.8兆円) 176.5兆円 (+4.7兆円) 預貸率 58.5% 国内貸出金*1,2 62.7兆円 国内預金*2 124.8兆円 有価証券 譲渡性預金 13.9兆円 (NCD) 36.8兆円 (+3.6兆円) 8.9 兆円 国債 外国债券 16.0兆円 その他 その他 145.7兆円 (+6.9兆円)

76.6兆円

57.3 兆円

総資産 285.8兆円 (+15.3兆円)

| 預貸金の構成比(BC単体)*1



円金利の上昇による資金利益影響 (B/S不変前提)



市場性運用益の改善は織り込まず金利上昇継続の可能性から、国債買増しは慎重に検討

現預金

日銀当座預金*2

^{*1} 内部管理ベース *2 BC単体 *3 固定金利貸金の入替が進むことで、5年後約+600億円

^{*4} 一定の仮定に基づいた試算。市場環境により変動

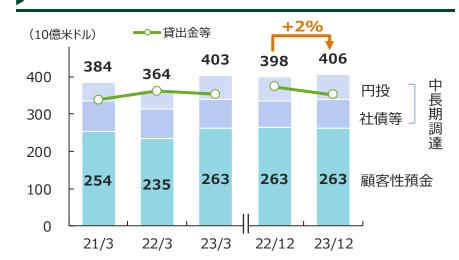
外貨流動性

外貨B/S *1,2



資産·負債 593 (+15)

外貨ファンディング



外貨金利の上昇影響

預貸金

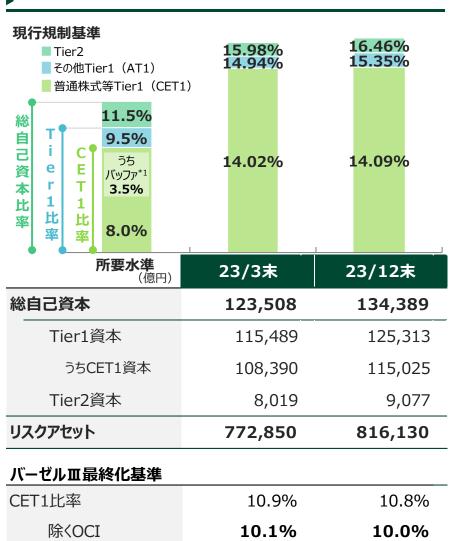
● 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動一部、金利感応度の低い流動性預金によってメリット享受

外債

- 国債金利が上昇すれば、含み損は拡大
- キャリー収益については、調達コストは上昇する一方、 一部償還再投資分の利回りが改善

資本・リスクアセット

自己資本比率



その他の規制比率

	23/12末	所要水準 ^{*1}
外部TLAC比率		
リスクアセットベース	25.92%	18.0%
レバレッジエクスポージャーベース	9.72%	6.75%
レバレッジ比率	5.04%	3.5%
LCR(23年度3Q平均)	134.4%	100%

事業部門別実績①

リテール

- 資産運用ビジネスの回復と決済ファイナンスビジネスの業容拡大で 業務粗利益・業務純益ともに増加
- SMBCCFの与信費用は抑制施策が奏功し、3Q単体の発生は 減少(23年度上期:▲430⇒1-3Q:▲540)

(億円)	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	9,448	+782
預貸金収益*2	855	▲ 35
資産運用ビジネス	2,202	+311
決済ビジネス	4,053	+376
コンシューマーファイナンス	2,169	+137
経費	▲ 7,989	▲ 634
(経費率)	84.6%	△0.3%
業務純益	1,502	+161

ホールセール

- 貸出金増加・利鞘改善による預貸金収益の増加に加え、 ストラクチャードファイナンス等の非金利収入も好調
- 証券を中心とするグループ会社も好調で、 業務粗利益・業務純益ともに増加

	(億円)	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利	益	5,906	+550
	預貸金収益	2,491	+248
	外為·為替手数料	1,014	▲ 11
SMBC	シンジケーション	325	+14
	ストラクチャードファイナンス	260	+155
	不動産ファイナンス	108	+8
証券		482	+224
経費		▲ 2,335	▲ 189
(経費	率)	39.5%	△0.5%
業務純益		4,372	+436

事業部門別実績②

ブローバル

- 金利上昇による預貸金収益の増加に加え、 ローン関連手数料も3Qで反転し、業務粗利益は増加
- インフレ等により経費も増加したものの、 持分法投資損益*1の増益により、業務純益も増加

(億円)	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*2}
業務粗利益	9,527	+958
預貸金収益	4,748	+656
ローン関連手数料	1,741	+144
証券	560	+78
経費	▲ 5,694	▲ 771
(経費率)	59.8%	▲2.3%
持分法投資損益	698	+225
業務純益	4,773	+427

市場

ポートフォリオ全体のマネジメントによる着実な収益蓄積に加え、 S&Tビジネスも堅調で、業務粗利益・業務純益ともに増加

(億円)	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*2}
業務粗利益	3,991	+299
SMBC	2,558	+57
SMBC日興	1,051	+174
経費	▲ 1,197	▲ 119
(経費率)	30.0%	▲0.8%
業務純益	3,011	+168

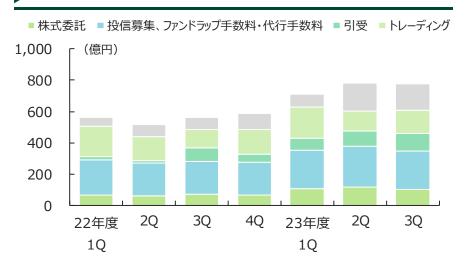
^{*1} SMBCACにおける保険金受領および22年度に計上した東亜銀行における持分法変動益の剥落を含む *2 金利・為替影響等調整後ベース

SMBC日興

業績

(億円)	22年度	23年度 1-3Q	前年 同期比
純営業収益	2,228	2,267	+625
販売費・一般管理費	▲ 2,673	▲ 2,089	▲ 170
経常利益	▲ 421	197	+465
親会社株主純利益	▲398	66 ^{*1}	+310

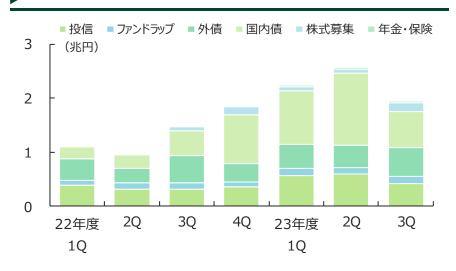
純営業収益



預り資産残高



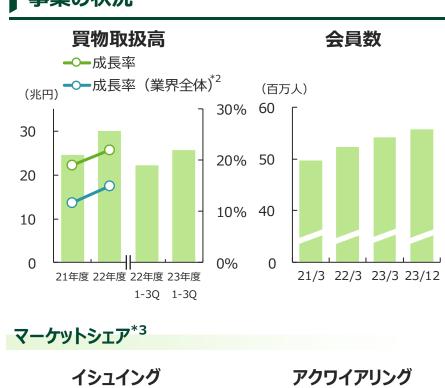
商品販売額

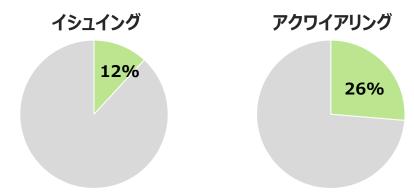


業績

(億円)	22年度	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
営業収益	5,235	4,664	+791
うち買物手数料	1,938	1,689	+250
ファイナンス	1,033	1,190	+421
信販	280	210	▲2
収納代行	527	400	+11
営業費用	▲ 4,907	▲ 4,280	▲ 795
うち貸倒費用	▲341	▲395	▲ 163
利息返還費用	▲ 100	-	-
経常利益	331	402	+14
親会社株主純利益	218	276	+12
ファイナンス残高	7,366	10,846	

事業の状況





^{*1} SMBCモビットの再編影響を遡及反映せず *2 日本クレジット協会「クレジットカード動態調査」ショッピング信用供与額 *3 経産省「特定サービス産業動態統計調査」販売信用業務取扱高(2022年暦年、約79兆円)に占める割合

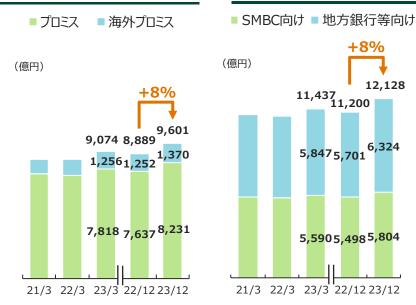
SMBCCF

業績

(億円)	22年度	23年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
営業収益	2,941	2,008	▲207
うち営業貸付金利息	1,834	1,095	▲284
信用保証収益	714	580	+44
営業費用	▲2,168	▲ 1,429	△27
うち貸倒費用	▲ 568	▲ 549	▲81
債務保証費用	▲ 114	▲ 86	▲32
利息返還費用	▲190	-	-
経常利益	595	408	▲281
親会社株主純利益	441	249	▲305
不良債権残高	1,070	960	
(同比率)	8.74%	10.00%	
利息返還損失引当金	895	733	
(引当年数)	3.5年	3.4年	

営業貸付金残高





利息返還請求件数



「資産運用ソリューションプロバイダー」に向けて

運用からコンサルティング提供に至るまでのインベストメントチェーン全体の機能を強化し、 お客さまの多様なニーズに寄り添いながら最適なプランを提供

1 資産運用ソリューション型提案態勢の整備



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する 当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現 在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれており ます。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、 「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、 この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保 証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実 際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる 「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があ ります。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性としては、 以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、 保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の 増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合弁事 業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外 における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよ び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業 績に関する記述 |を過度に信頼すべきではありません。当社グ ループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や 改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および 経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性 がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本 邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出した Form 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしま した各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート(月末TTM)

	22/12末	23/3末	23/12末
1ドル	132.71円	133.54円	141.83円
1ユーロ	141.43円	145.75円	157.08円

本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ(持株会社)
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
三井住友DS	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company (旧Fullerton India)
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行(中国)
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
BC単体	三井住友銀行単体
経費(BC単体)	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門 (RT)	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門(WS)	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門(GB)	海外ビジネス
市場事業部門(GM)	市場関連ビジネス